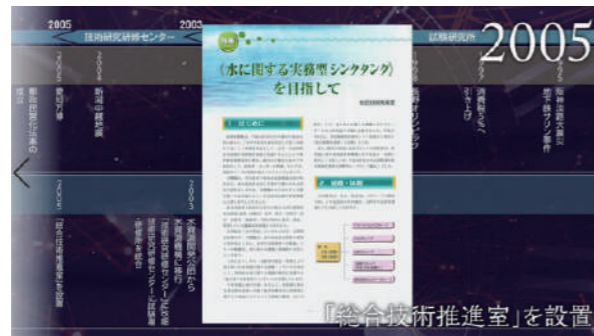


# 総合技術センター20周年記念行事の 取組について

総合技術センター(以下「センター」という。)は、水資源機構の経営方針で掲げる「水に関する総合力に優れた実務型シンクタンク」の中核を担う組織として、平成17年4月に設置された「総合技術推進室」をその源流として発展してきました。



総合技術推進室設置

おかげさまで、本年度(令和7年度)をもちまして、センターは総合技術推進室の設置から20年の節目を迎えることとなりました。

センターでは、これまで培ってきた技術力、豊富な人的・物的リソース、そして多様な研究シーズを、機構全体の職員に広く共有・浸透させることにより、機構技術の継承と発展を図ることを目的として、「ステータスUP(先進)アクションプラン」を策定し、積極的に推進してきました。

本年度、センターが設立20周年という節目を迎えるにあたり、このアクションプランの一環として「20周年記念行事実行委員会」をセンター内に設置し、全職員が何らかの形で企画・運営に参画できる体制を整備しました。こうした“全員参加型”の取組を通じて、センターの総力を結集し、記念行事を成功裏に実施することができました。



総合技術センター職員集合写真

本取組の推進にあたり、全国所長会議、支社局長等会議、技術交流サロンなど、機構内の様々な場を通じて取組の趣旨や内容について広く発信しました。これにより、本年度がセンター設立20周年という重要なアニバーサリーイヤーであることを、機構全体に周知することができました。

## 記念行事の紹介

### ドキュメンタリー動画制作「総合技術センターの功績と未来への展望」

本動画は、センターの源流を遡ること60年に及ぶ歩みを体系的に整理したものであり、公団時代における前身組織(試験所を含む)の活動を紹介する「総合技術センターの軌跡」、平成13年12月の特殊法人等改革に伴う独立行政法人化という組織上の大きな「転機」、独立行政法人化以降、技術の一元的集約を進め、機構内外の課題に機動的・効率的に対応する中核的技術拠点として確立していった「総合技術センターの誕生」、さらに、現場課題の解決と事業推進に果たしてきた「功績」、そして今後の業務展開の方向性を示す「未来への展望」で構成しています。

本動画の制作にあたっては、職員をはじめ、継続雇用従事者、事務補助業務従事者、派遣業務従事者が一丸となり、写真、資料の収集から編集作業に至るまで協力して取り組み、無事に作品を完成させることができました。

設立当初から現在に至るまでの歩みと数々の成果を、収集した写真等をもとに映像として再構成したことで、センターの軌跡に対する職員の理解と認識が一層深まったものと考えています。

完成した動画は、総合技術センターOB会(名称「水しん会」)設立総会の際でも披露しました。視聴されたOBの皆さまからは「懐かしい」「当時を思い出す」といった感慨深い声が寄せられ、大変好評をいただきました。



水理模型実験(小石原川ダム洪水吐)



ダム等検査・点検(下久保ダム)



試験所



農業・食品産業技術総合研究機構との連携



ダム防災操作研修



総合技術センター

## 安藤理事(総合技術センター所長)による記念講演

令和7年12月4日に開催された総合技術センターOB会設立総会を記念し、「総合技術センターの功績と未来への展望」をテーマに、安藤理事(センター所長)により講演を行いました。

講演では、センターが築いてきた輝かしい功績や後世に伝えるべき貴重な史実を振り返るとともに、次期中期目標期間においてセンターが果たすべき役割や今後の展望について、幅広い観点から紹介いたしました。



記念講演資料



安藤理事(総合技術センター所長)



記念講演の様子

## 記念ロゴ、CIメッセージ

記念ロゴおよびCIメッセージについては、職員から十数点に及ぶ多彩な提案が寄せられ、その中から職員による投票を通じて最終選定を行いました。

水に寄り添う、技術のちから。  
—現場に根ざし、社会に活かす知の力—



水資源機構  
総合技術センター

記念ロゴ、CIメッセージ

## 記念カレンダー、記念トートバッグの作成

制作した記念カレンダーには、センターの記念ロゴおよびCIメッセージを冒頭に掲げるとともに、センター各部署と職員の紹介を掲載しました。さらに、センターが掲げる5つの重点取組「現場事務所支援」「研究開発」「社会貢献」「連携・交流」「技術力向上・継承」と、日常の業務内容を視覚的に分かりやすく示す構成としています。

記念トートバッグは、センターの記念ロゴとCIメッセージをあしらったデザインとし、記念品として制作いたしました。総合技術センターOB会設立総会の際には、OBの皆さまにも配付したところ、大変ご好評をいただきました。



記念カレンダー



記念トートバッグ

今後、来年度にかけては、総合技術センターの歴史や文化、これまでの功績、そして未来への展望を、より感動的かつ魅力的に発信することを目的として、センターの挑戦と技術革新の軌跡を振り返るとともに、次世代に向けた目標や戦略を共有する取組を順次進めていく予定です。

主な取組は以下のとおりです。

## 歴代所長による座談会の開催

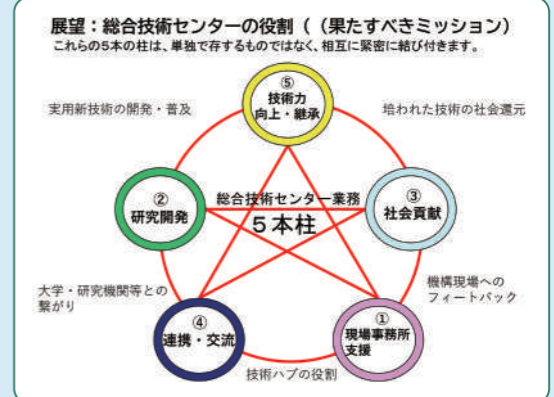
総合技術推進室から総合技術センターに至る歴代所長をお招きし、在任当時に尽力された事項や後世に伝えるべき経験・知見、現役職員への期待などについて語っていただく座談会を開催します。センターの歩みを「語り継ぐ」貴重な機会とする予定です。

## 20周年記念誌の発行(令和8年度第2四半期目途)

総合技術センターの役割、これまでの業務の歩みと功績、職員の声、写真などを網羅した技術誌として、「20周年記念誌」を発行する予定です。センターの軌跡を体系的にまとめ、未来につなぐ記録として編纂してまいります。

## 総合技術センターの役割 (果たすべきミッション)を 紹介します。

総合技術センターは、「現場事務所支援」「研究開発」「社会貢献」「連携・交流」「技術力向上・継承」の5つを主要な柱として、各業務を一体的かつ相互に関連づけながら推進しています。



- ① **現場事務所支援**：現場から信頼されるホームドクターとして、専門的かつ高度な技術支援を行います。
- ② **研究開発**：技術4ヶ年計画に基づき、研究開発と現場実装を進め、効果の検証と技術の体系化を図ります。
- ③ **社会貢献**：水インフラ分野の課題解決を支える存在として、外部機関への支援を行います。
- ④ **連携・交流**：各分野をリードする大学等との連携・交流を一層拡大し、現場との技術的橋渡し役としての機能を強化します。
- ⑤ **技術力向上・継承**：総合技術センターが長年培ってきた技術を集約・活用する拠点としての役割を発揮し、技術の継承や人材育成に貢献します。

## おわりに

総合技術センターは、水資源開発施設に関する基幹的・専門的技術の深化を通じて事業の着実な推進を支えるとともに、社会的課題への対応、技術力の向上と継承、人材育成に取り組み、これからも水資源機構の発展に貢献してまいります。